



Subaru

# 昇 男声合唱団

ニュース№408 '13. 4. 8

## 祭典・制作協力金

昇・3/31現在	529,000円です。
(前回)	+40,000)
(昇目標)	600,000円)

## 田辺さん新入団ようこそ！！

4月5日

□4月5日(金)は奥村さん(御母堂が亡くなられたばかりです。お悔やみ申し上げます)の体操、本並先生の和声学の講義を兼ねたカデンツの発声と指揮、静さんのピアノで、「街を返せ」、「重なり合う手と手」、「安里屋ユンタ」、「春なのに」、休憩・連絡をはさんで、「母なるヴォルガを下りて」、「音戸の舟唄」(一番は乾さんのソロ)、「美しく碧きドナウ」、最後に再び合発曲の2曲「母なるヴォルガを下りて」と「音戸の舟唄」をレッスンしました。参加は、久々の参加のはがさんを加えて全34名でした。



□うれしいニュース!田辺寿夫(ひさお)さんが新入団されました。昭和22年3月生まれ、趣味特技はバイオリンで、現在「ウイークデイアンサンブル」(主として高齢者福祉のため、生の音楽の出前演奏を行う約20名の演奏ボランティア・アンサンブル)で活躍しておられ、また建築士でもあります。関西合唱団にも若いころ7年間在籍しておられました。T1で歌われます。ようこそ!!大歓迎です。一緒に楽しく歌いましょう。



## 5月26日 千秋昌弘テノールソロコンサート

地域、同窓会でも支援拡大中。昇も一回りふた回り大きな支援を!  
現在入金は202枚。ほとんどが千秋さんからの入金です。  
昇と紫金草で400枚の拡大が目標です。

□ 4月5日の定例レッスンで、檀美知生先生からドイツ公演の報告と今後のことについて下記のお話がありました。原稿をいただきましたので、ここに掲載します。

## 日本のうたごえ合唱団ドイツ公演の報告

檀 美知生

雪景色と氷点下のドイツからの旅を終え昨夜帰国すると、日本では満開の桜の花が待っていてくれました。その旅の報告と私の所見を述べさせていただきます。

ヨーロッパへの旅は、3月24日から30日まで全国から日本のうたごえ合唱団の総勢74名、ドイツのホーフというところとデュッセルドルフの2ヶ所で公演旅行を真ん中に、前後に私たちだけの旅を入れての2週間でした。

ドイツ公演では、2-3回の合同練習とは思えぬほどの高い質の演奏をすることができ、現地の教会の合唱団のドイツ人もびっくりされ、最後は総立ちの拍手、スタンディングオベーションでアンコールまでされました。軽快な歌、楽しい歌もあり楽しんでもらいましたが、何より、ヒロシマ、ナガサキ、フクシマのテーマの曲にもっとも感動されました。また東日本の2万人の犠牲者への鎮魂の歌としてモーツアルトのレクイエムとアヴェヴルムコルプスを現地の合唱団と約120名のジョイントで歌い、音楽という世界の共通語での連帯と至福の瞬間を持つことができました。

交流会では私たちは独自に手作りひまわりを「復興支援のシンボル」として紹介しながら、現地の合唱団の人に手渡し、被災地や福島の話をする、大いに共感、涙されるドイツの方もいました。

またドイツに行くなら反原発の団体との交流をと以前提案していたことが実現し、「自然エネルギーへの転換」の舵を切るドイツに、日本の一青年が科学者としてがんばっている姿が印象的でした。

「価値観を変えていく時代」という新しい地球規模の話も大変刺激と勉強になりました。

私自身は14曲もの歌のテナーの中心の声となったことで指揮の守屋さんや渡辺亨則さんから感謝されました。また全国各地、北海道から九州にいたる各地のうたごえの皆さんとも、特にドイツ語のまじった英会話で



ホーフコンサート後の交流会にて

皆さんの面倒みることができ楽しい交流と感謝され、私たち夫婦はいつもあったかい雰囲気にもまれていることができました。今回とてもいい旅をすることができ、今後も意欲的な音楽活動をする気持ちで帰国してきました。以上がドイツ公演の報告です。

ここで私の今後について話します。

本日をもって、副指揮者、ボイストレーナーを辞任し、昴を退団したいと思います。今回、世界の人々、また日本全国の皆さんとの交流の中、自分自身が指揮者やソリストとして、またリーダーシップを発揮していろんなプロジェクトを進めていく能力が残されていると確信できましたし、広い視野で私たちの力を必要としている人がいると思いました。特に東日本の復興は、海音ちゃんたちも幼く、あの仮設さえ解消されていない現実の中では、そこを大事にしないわけにはいきません。狭い地域のセクトを越えて、関西ばかりでなく全国と時に世界の人とも、被災地を結び付け、手を取り合っの連帯でしか、困難を乗り越えることができないと思うからです。

昴では早いもので8年間の在籍でした。シンフォニーホールやNHKホールほか数々のコンサートで指揮、ソロもし、佐渡や南京公演もご一緒し、何より二度の私たちが企画推進した東北支援に参加いただいたことは忘れがたいし、昴にとっても誇りある活動だったと思います。「誰のために何をどう歌うか、どういう声で伝えるか」をいい続け、昴の音楽的力を高めることにも寄与したと自負しています。あとの体制も整っているということだそうですが、昴の創立の精神と意欲を大切にする音楽づくりと、団員を大切にする団運営を行い、昴がますます発展されることを願っています。

日うた祭典の全国合同になった、私の創った「おらあここがいい」の歌は、私たちにむろん被災地の皆さんにも特別の意味と意義のある歌です。必ずたくさんの人を集めて盛大に歌われることを願っています。今回の旅でも全国各地のうたごえの皆さんの前で歌って、宣伝しておきました。

私たちが来年の1月12日の芸文センターでも歌います。そしてこのコンサートには海音ちゃんたち陸前高田の皆さんをお呼びし、支援の心を貫いたすばらしいものにして、何としても成功させたいと思っています。「支援合唱団」あらため「奇跡の花合唱団」には、支援の心をお持ちの皆さん、是非、個人参加でお越しく下さい。私たちは今までと変わらぬ姿勢と精神でTERRAホールでお待ちしています。皆さん、いろいろお世話になりました。



雪のザルツブルグにて

# 西島さんの 切り撮ってみる



「Port Moresby-①」

人口約 30 万人のパプアニューギニア(PNG)の首都。毎週土曜に成田から約 5000km を 6 時間 30 分で飛ぶ直行便があります。この国には細かく分けると約 800 の言語があるといわれ、公用語は英語ですが、現地語と英語が奇妙に融合しているように思われます。旧日本軍はこの街を占領することは出来なかったのです。

スミロという町にある水上部落。海上なら固定資産税がかからないとか？ 前方の山の斜面は「Town」と呼ばれ高級ビル群がある。



「Port Moresby-②」

観光案内書によると：パプアニューギニアでは、各々の部族が異なる言語と文化を持ち、その村独特の伝統を今に伝えています。その伝統文化の集大成がシンシンで、シンシンとは関の声あげて踊る儀式のことです。もともとは戦闘の前に士気を高めることを目的にしていたが、最近では結婚式や収穫の祝いの際行われる祭りとしての性格が強くなっています。全身をデコレーションした男女が、リズムカルな打楽器の音と相まって飛び跳ねるようにして踊る姿は大変な迫力があります。

この写真はホテルでの観光シヨウ的なものです。



……皆さんもう退屈されると思いますので、この旅については終わりにします。西島……